

獣医学教育 標準カリキュラム

このカリキュラムは、我が国の獣医学教育において教授すべき科目を網羅した標準的なプランとして作成したものである。各大学はこの内容を参考にして独自のカリキュラムを作成するが、その際、各大学の特徴となる科目を追加し、単位の配分や学期別配置などに工夫を行うものとし、この内容をそのまま実施する必要はない。このカリキュラムは、獣医学専門教育に関わる分野のみを対象にしたものであり、一般教養科目は含まれていない。
(全国大学獣医学関係代表者協議会 2004.4.2.)

1 . 講義

	科 目	含まれる主な分野	単位数
基礎獣医学	高等動物の比較生物学	獣医学概論、機能と形態、正常と異常、種の特異性	2
	生物実験学	実験計画、生物統計学	2
	草地・畜産学概論	産業動物の飼養、管理、利用の基礎	2
	畜産物利用・畜産食品利用学	畜産物加工、新機能性食品、新素材	2
	解剖学総論	比較解剖学、進化、系統発生	4
	解剖学各論	獣医組織学（正常組織）	2
	解剖学各論	細胞生物学、超微形態学（正常）	2
	発生学・奇形学	胚の発生と成長、形質発現、発生工学	2
	遺伝学・育種学	遺伝理論、品種論、育種論	2
	生理学総論	膜生理、神経制御、ホルモン制御、代謝	2
	生理学各論	内分泌、妊娠・繁殖生理、消化吸收、泌尿	2
	生理学各論	筋肉、運動、呼吸循環、神経系	2
	薬理学総論	薬物反応論、標的器官と受容体、薬物作用全般	2
	薬理学各論	情報伝達の分子的基盤	2
	生化学総論	糖・蛋白・脂質代謝、同化・異化作用、酵素	2
	生化学各論	同化・異化作用の分子基盤、遺伝子発現機構	2
	放射線生物学	生体作用、RI、核医学、取り扱い	2
	動物行動学	個体と群の維持行動、行動の生理学的基盤	2
	毒性学	毒物の作用、薬物の安全性	2
疾患予防・	微生物学総論	微生物学の基礎	2
	微生物学各論	病原性細菌・リケッチャの性状と鑑別	2
	微生物学各論	病原性ウイルスの性状と鑑別、遺伝子発現	2
	感染症学（伝染病学）	感染理論、感染予防と制御、海外悪性伝染病、新興感染症	3
	病理学総論	炎症、変性・壊死、腫瘍、リモデリング	2
	病理学各論	診断病理学、病理組織学	2

制御学	病理学各論	実験病理学、超微形態学（異常形態）	2
	寄生虫学・寄生虫病学	寄生虫の生物学、寄生虫感染論、感染予防	3
	免疫学	アレルギー機序、生体防御	2
	家禽疾病学	鶏、鶉等の鳥類の疾患（微生物学各論、感染症学、寄生虫病学の中でも取り扱う）	1
	魚病学	魚類の疾患と予防、治療	2
	病態生理学	病態発現の生理機構、病態解析手法	1
	衛生学	産業動物・伴侶動物の管理衛生、飼養衛生、予防衛生、衛生行政	2
社会獣医学	実験動物学	疾患モデル動物、実験動物の種特異性	2
	公衆衛生学概論	疫学、獣疫学（国際獣疫学含む）	1
	公衆衛生学各論	環境衛生（大気、水質、土壌、騒音・振動）	2
	公衆衛生学各論	食品衛生（食中毒、畜産食品の衛生）	2
	公衆衛生学各論	人獣共通感染症（人に感染する動物由来感染症）	2
	安全性評価・管理学	飼料・薬品・食品の安全性評価と管理	1
	野生動物学・野生動物医学	野生動物の生態と疾患	2
	獣医・畜産・環境法規/病院管理学	獣医師の資格と責務、法解釈	1
	動物倫理学・動物介在療法概論	伴侶動物の福祉、人と動物のかかわりと福祉	1
獣医臨床学	内科学総論	小動物・産業動物の診断と治療の概論	2
	皮膚病学・アレルギー病学	皮膚の外傷、炎症、寄生虫感染症	2
	泌尿器病・生殖器病学	腎疾患、膀胱・尿路疾患、子宮・産道疾患	2
	消化器病学	食道・胃腸の炎症、閉塞、捻転、消化不良	2
	呼吸器病・循環器病学	呼吸器炎症、閉塞、心疾患、血管障害	2
	血液病・代謝病学	臓器代謝障害、造血機能障害、血液凝固	2
	外科学総論	小動物・産業動物の診断治療学全般	2
	軟組織疾患学	腫瘍、内臓疾患、ヘルニア	2
	整形外科学	骨折治療、頭部・脊椎損傷の治療	2
	神経病・運動器病学	中枢・末梢神経障害、筋腱・骨疾患	2
	耳鼻・眼科・歯科・口腔外科学	耳鼻・眼・歯・口腔の外傷、腫瘍、奇形	2
	手術学	手術適応疾患、術式、消毒、術後管理	2
	画像診断学	X線撮影法、読影法	2
	画像診断学（高度診断医療学）	CT、MRI、超音波	2
	麻酔学	鎮痛、鎮静剤、吸入麻酔、バランス麻酔	1
	臨床繁殖学・産業動物臨床学	牛、馬、豚、羊、山羊、家禽の疾病	4

	臨床病理学・内分泌病学	血液・代謝疾患の機序と診断法	2
	臨床生化学	遺伝性疾患、代謝疾患の分子的基盤	1
	臨床薬理学	疾患の薬理学的治療法	1
	行動治療学	問題行動の分類、原因、治療	1
	エキゾチックアニマル臨床学	外来動物の疾患の基礎知識と治療法	1
			計 119

講義単位 1 単位 = 90 分 × 8 回

単位数 119 単位 (必修)

2 . 実習および卒業論文・臨床研究

	科 目	含まれる主な分野	単位数
基礎獣医学 実習	解剖学実習	骨、筋、内臓の構造	2
	組織学・微細形態学実習	正常形態	2
	組織学・微細形態学実習	異常形態	2
	生理学実習	神経 筋系、内分泌、呼吸循環系、消化吸収	2
	生化学実習	糖、蛋白、脂質の測定、蛋白発現	2
	遺伝学・発生学・発生工学実習	胚操作技術、遺伝情報解読法、胚発生	1
	薬理学実習	薬物反応、受容体親和性、細胞内情報	2
	放射線生物学実習	RI 手技、核医学	1
	毒性学実習	薬物・化学物質の安全性	1
疾患予防・ 制御学実習	微生物学実習	細菌培養・同定、細菌・ウイルス抗体	2
	寄生虫学・寄生虫病実習	寄生虫検査法、駆除法	2
	衛生学実習	産業動物・伴侶動物の衛生(中毒、消毒、環境要因)	1
	産業動物管理衛生実習	産業動物の管理(ハンドリング、栄養、蹄学、生産病)	1
	病理診断学実習	罹患小動物・産業動物の病理検査法	2
社会獣医学 実習	環境衛生学実習	環境化学物質、騒音・振動の生体作用	1
	食品衛生学実習	中毒原因物質の同定、疫学調査	2
	実験動物学実習	モデル動物、種差・系統差、飼育管理	1
獣医臨床学 実習	臨床形態学実習	骨折、脈管、内臓障害の形態学的把握	1
	診断学基礎実習	問診、聴診、一般身体検査	2
	診断学基礎実習	X線検査、エコー、心電図、CT、MRI	2
	診断学基礎実習	血液検査、尿、糞便検査	2
	麻酔学実習	鎮静・麻酔法と麻酔管理	1
	手術学実習	手術法と術後管理	2

	治療学実習	内科的治療法	1
	総合臨床実習(臨床繁殖学実習を含む)*	皮膚、神経、呼吸器、循環器、運動器、血液・代謝、耳鼻眼科、 口腔、消化器、泌尿器、生殖器の診断・治療	16
	卒業論文または臨床研究	卒業論文課題または臨床研究課題	6
			計 60

実習単位 1単位 = 180分 × 8回 必修 60単位

* : 臨床ローテーション方式

講義学期別配置

	科目	2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
		前期	後期								
基礎 獣医 学	高等動物の比較生物学	2									
	生物実験学	2									
	草地・畜産学概論	2									
	畜産物・食品利用学	2									
	解剖学総論	2	2								
	解剖学各論		2								
	解剖学各論			2							
	発生学・奇形学			2							
	遺伝学・育種学				2						
	生理学総論	2									
	生理学各論		2								
	生理学各論			2							
	薬理学総論		2								
	薬理学各論			2							
	生化学総論		2								
	生化学各論			2							
放射線生物学	2										
動物行動学				2							
毒性学						2					
疾患 予防 ・ 制御 学	微生物学総論			2							
	微生物学各論				2						
	微生物学各論				2						
	感染症学(伝染病学)					2	1				
	寄生虫学・寄生虫病学					2	1				
	免疫学			2							
	家禽疾病学					1					
魚病学						2					

	病理学総論				2						
	病理学各論					2					
	病理学各論						2				
	病態生理学						1				
	衛生学							2			
社会 獣医 学	実験動物学					2					
	公衆衛生学概論					1					
	公衆衛生学各論						2				
	公衆衛生学各論							2			
	公衆衛生学各論								2		
	安全性評価・管理学								1		
	野生動物学・野生動物 医学		1						1		
	獣医・畜産・環境法規 / 病院管理学									1	
動物倫理学		1									
獣医 臨床 学	内科学総論					2					
	皮膚病・アレルギー病					2					
	泌尿器病・生殖器病学						2				
	消化器病学							2			
	呼吸器病・循環器病学							2			
	血液病・代謝病学						2				
	外科学総論					2					
	軟部組織疾患学					2					
	神経病・運動器病学						2				
	手術学							2			
	成形外科学								2		
	耳鼻・眼科・歯科・口 腔外科学								2		
	画像診断学							2			
	画像診断学								2		
	麻酔学							1			
	臨床繁殖学・産業動物 臨床学								2	2	
臨床病理学・内分泌病 学							2				
臨床生化学						1					

	臨床薬理学							1			
	行動治療学								1		
	エキゾチックアニマル臨床学									1	
	計	14	12	14	10	18	18	16	13	4	0
											計 119

講義単位 1単位 = 90分 × 8回 単位数 119単位 (必修)

講義スケジュールの例：小動物内科学

項目	講義回数
イントロダクション	4
総論	4
心臓血管疾患	8
呼吸器疾患	6
消化器疾患	6
肝臓、胆道・膵外分泌疾患	4
腎泌尿器疾患	8
代謝疾患および電解質異常	4
生殖器疾患	2
神経・筋疾患	4
関節疾患	2
腫瘍性疾患	4
血液・免疫疾患	8
感染症	4
皮膚疾患	6
合計	74

実習学期別配置

	科目	2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	学期	前期	後期								
基礎 獣医 学実 習	解剖学実習		1	1							
	組織学・微細形態学実 習(、)			2	2						
	生理学実習		2								
	生化学実習		2								
	遺伝学・発生学・発生 工学実習				1						
	薬理学実習			2							
	放射線生物学実習		1								
	毒性学実習							1			
疾患 予防 ・ 制御 学実 習	微生物学実習				2						
	寄生虫学・寄生虫病学 実習					1	1				
	衛生学実習						1				
	産業動物管理衛生実 習							1			
	病理診断学実習					1	1				
社会 獣医 学実 習	環境衛生学実習								1		
	食品衛生学実習							2			
	実験動物学実習					1					
獣医 臨床 学実	臨床形態学実習					1					
	診断学基礎実習					1	1				
	診断学基礎実習					1	1				
	診断学基礎実習					1	1				
	麻酔学実習								1		

習	手術学実習・成形外科学実習							2			
	治療学実習						1				
	総合臨床実習(臨床繁殖学実習含む)*								8	8	
卒業論文又は臨床研究								2	2	2	
単位数			7	5	5	7	7	4	6	10	10
計 60											

*:臨床ローテーション

実習単位 1単位 = 180分 × 8回

必修単位数 = 60

臨床ローテーション、セミナー、症例検討会

6年前期		
	1～3限目	4限目
月	臨床ローテーション	セミナー
火	臨床ローテーション	
水	臨床ローテーション	
木	臨床ローテーション	
金	臨床ローテーション	症例検討会
6年後期		
	1～3限目	4限目
月	臨床ローテーション	セミナー
火	臨床ローテーション	
水	臨床ローテーション	
木	臨床ローテーション	
金	臨床ローテーション	症例検討会

各曜日の臨床ローテーション時間は3時間

セミナーおよび症例検討会は各2時間

臨床ローテーション		
診療科名	必修(8)	選択(4/8)
小動物一般内科	○	
小動物循環器・呼吸器科	○	

小動物血液・腫瘍内科	○
小動物皮膚科	○
小動物眼科・神経科	○
小動物一般外科	○
小動物麻酔科・救急科	○
小動物整形外科・歯科	○
小動物軟部外科・腫瘍外科	○
野生動物・エキゾチックアニマル診療科	○
動物行動臨床科	○
大動物内科	○
大動物外科	○
臨床繁殖科	○
放射線診断・治療科	○
臨床病理科	○

臨床ローテーションの内容

- ・ 獣医臨床教育の国際水準に見合った教育を行う。
- ・ 5年次までのすべての講義・実習の単位を取得し、臨床ローテーションの開始前に基礎知識および臨床的対応を修得しておく。
- ・ 教官（教授、助教授、助手、レジデント、インターン）の指導のもとに問診、身体検査、診断、治療のすべてを行う。
- ・ 各科でのミーティングで教官の指導のもとで **discussion** を行う。

臨床ローテーションの運営方法

- ・ 5名で1グループをつくる（1学年定員80名の場合、16グループ）。
- ・ 必修の診療科（8診療科）+ 選択の診療科（8診療科のうち4診療科）の合計12診療科をローテーションする。
- ・ 各診療科で3週間の実習をする（3週間×12診療科＝36週間）
- ・ ローテーションコーディネーターの教官がグループ分けおよびローテーション日程を調整する。

獣医学教育附属施設（図書館を除く）

附属家畜病院（教育病院、高度医療センター、研修センター）
産業動物臨床教育センター（附属牧場、農場を含む）
実習用共通機器室（実習ワークステーション）